

2023年3月20日

「Digi-PoC TOYAMA（デジポックとやま）」実証実験プロジェクト 成果報告会の開催について

NTTコミュニケーションズ株式会社（以下 NTT Com）は、2022年6月に富山県から受託したデジタルソリューション推進事業において、「Digi-PoC TOYAMA（デジポックとやま）」実証実験プロジェクト（以下、本プロジェクト）の運営事務局を務めています。

本プロジェクトでは富山県が成長戦略として掲げる県民のウェルビーイングの向上や、「幸せ人口1000万」の実現を図るため、地域課題をデジタルソリューションで解決する事例を創出し、富山県におけるビジネスモデルの構築につなげることをめざしています。

（特設サイト） <https://digitalsolutiontoyama.jp/>

本プロジェクトの成果報告会が2023年3月27日に開催されますのでご案内します。

1. 開催概要

開催日時：

3月27日（月）13:00-15:00

開催場所：

富山県民会館 304号室（最大定員56名）

（所在地：富山県富山市新総曲輪4-18）

オンライン配信実施（Cisco Webex Events）

オンラインURL：

<https://docomohokuriku.webex.com/docomohokuriku/onstage/g.php?MTID=e2e69f7fa21333d23c17b4bb718b9f882>

イベント番号（アクセスコード）: 2519 806 1631

イベントパスワード: 0327

参加費：

無料（事前申し込み不要）

※会場にお越しの際は受付にて名刺の提出にご協力をお願いします。

その他：

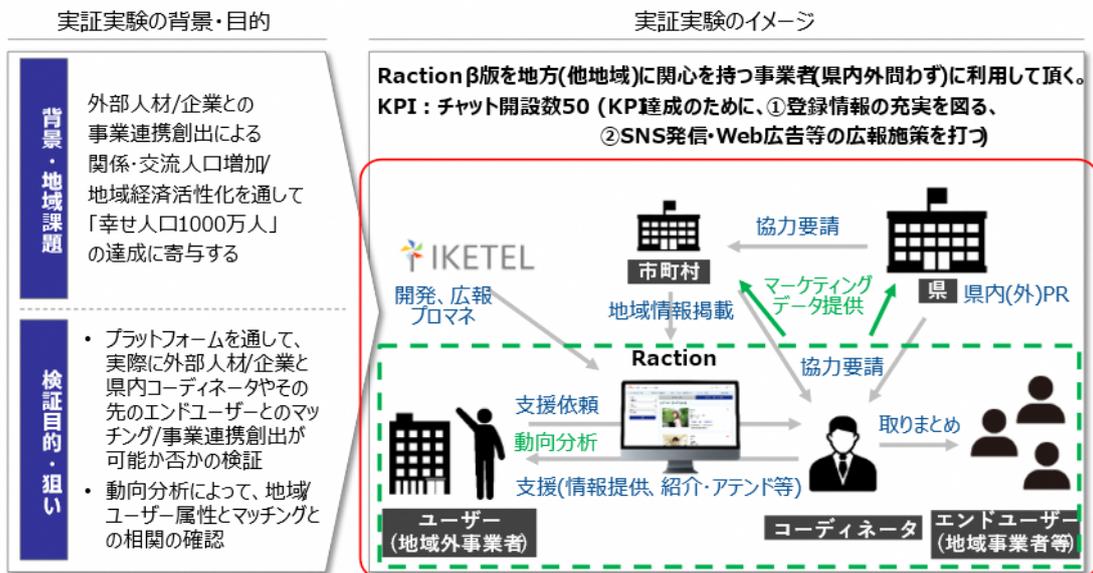
- ・ 当日は傍聴のみのご案内となります。
- ・ 現地では成果報告会開催後に名刺交換などの交流会（16：00まで）を実施します。

2. 各実証実験プロジェクト（7事業）について

<実証実験プロジェクト①>

- ・ 事業者名：株式会社 IKETEL（大阪府）
- ・ プロジェクト名：「地域内外連携プラットフォーム Raction」
- ・ 実証実験の概要：

オンラインプラットフォーム「Raction」を通じて、富山県をはじめとした地方や他地域で事業展開をめざす事業者と、ローカルのキープレイヤーをダイレクトにつなぎ、地域内外の事業連携を支援。関係人口、交流人口を増やし、地域経済の活性化をめざす。



＜実証実験プロジェクト②＞

- ・ 事業者名：株式会社キッチンハイク（東京都）
- ・ プロジェクト名：「地域系サービスの官民連携アグリケーションプラットフォーム構築」
- ・ 実証実験の概要：

新たにアグリゲーション Web サイトを立ち上げ、「保育園留学」や地域情報提供などのサービスを通じて、富山県の関係人口を増やし、地方創生へとつなげる。

実証実験の背景・目的

背景・地域課題

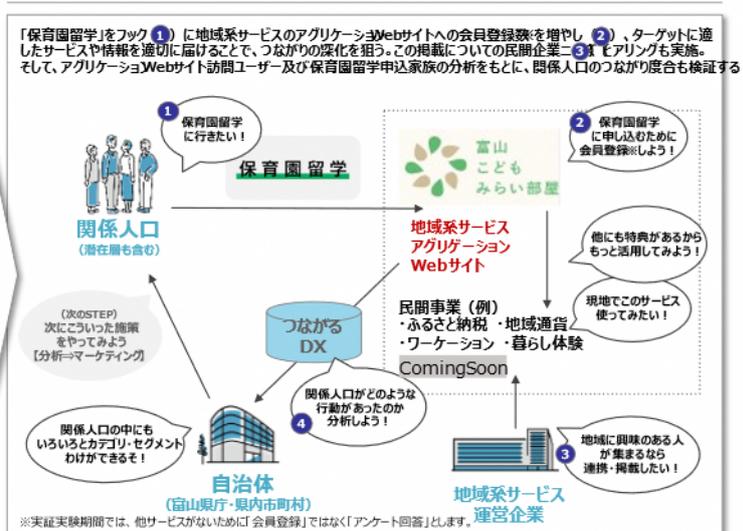
【対自治体】
富山県に一定の関わりや繋がりを持っていたいた県外在住者との絆を継続的であり差固なものにしていくため、事業機軸での関係人口管理・分析がしづらく、効果的な施策実施が導き出しにくい状況

【対関係人口】
富山県内に複数の関係人口関連事業が存在しているが、関係人口（潜在層含む）から富山県への関わり方がわかりづらく、機会損失を生んでいる。体系的に知ることができずページが存在しない/わかりづらい状況。

検証目的・狙い

関係人口及び地域系サービス運営企業、双方にとって魅力度の高い、地域系サービスプラットフォームを構築することで、関係人口の新規創出・拡大および関係人口とのつながり深化までを一貫して、目造化・持続可能なものにするを目的とする。

実証実験のイメージ



<実証実験プロジェクト③>

- ・ 事業者名：NTT コミュニケーションズ株式会社（東京都）
- ・ プロジェクト名：「ベビーテックを活用した育児負担の軽減および余暇時間の創出」
- ・ 実証実験の概要：

ベビーテック（子育てを支援するアプリや IT デバイスなど）の活用により、女性をはじめとする富山県内の子育て世代が抱える家事・育児の課題解決をめざす。

実証実験の背景・目的

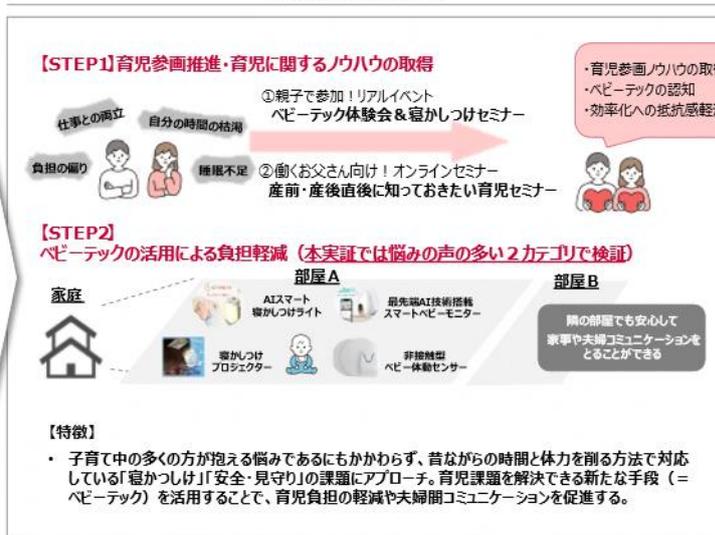
背景・地域課題

- ・ 県内の男性の1日あたりの家事・育児時間は女性に比べて短く、育児参画が進んでいない。また、育児においての家庭内でのかわり方を学ぶ機会が少ない
- ・ 家事・育児負担が女性に偏っており、外部サービスや便利家電に頼ることへの抵抗感から、時間・体力・睡眠を削って育児を行っている。

検証目的・狙い

- ・ 育児にITを活用する「ベビーテック」の認知度向上、利用促進を図ることで、家庭内育児の負担軽減・余暇時間の創出を狙う
- ・ ベビーテック体験イベントや企業の福利厚生を活用したセミナーを開催することで、ITデバイスへの抵抗感の軽減と効果的な活用方法を模索する。
- ・ 上記により、女性の負担軽減・男性の育児参加、意識の変化を狙う。

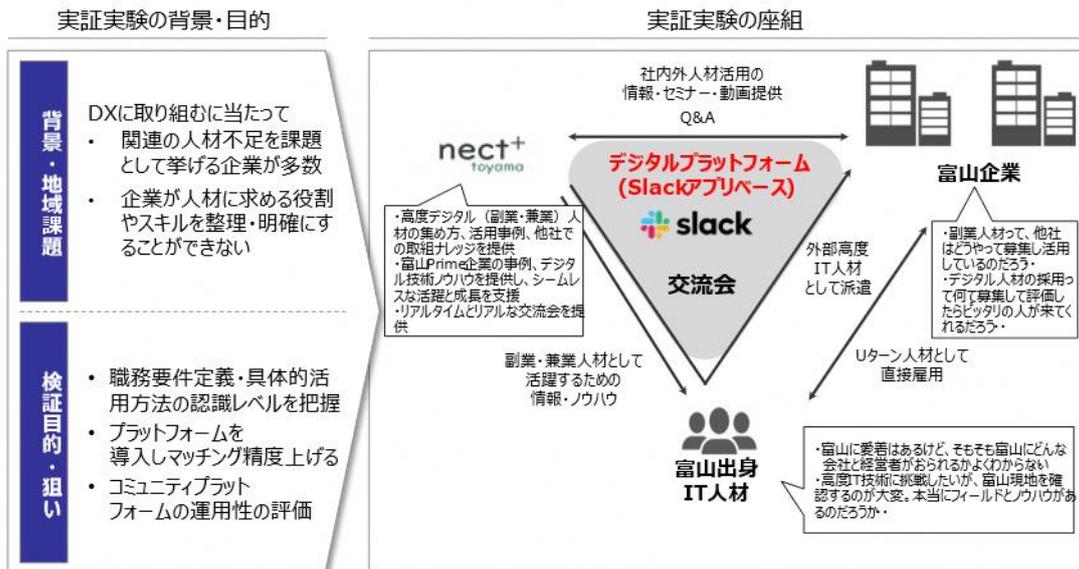
実証実験のイメージ



<実証実験プロジェクト④>

- ・ 事業者名：株式会社ネクトプラス（富山市）
- ・ プロジェクト名：企業デジタル化・DX 推進高度デジタル人材マッチング
- ・ 実証実験の概要：

富山県出身のデジタル人材と県内企業をつなぐマッチングサイトのリリース、および外部人材の活用ノウハウや事例の普及により、県内の中小企業が抱える IT 課題を解決。



<実証実験プロジェクト⑤>

- ・ 事業者名：株式会社 IoTRY（射水市）
- ・ プロジェクト名：中小製造業におけるデジタルツインを用いたデータ活用人材の育成事業
- ・ 実証実験の概要：
デジタルツイン技術により工場の作業環境を仮想空間に再現し、作業工程のシミュレーションなどによって業務改善を図る。

実証実験の背景・目的

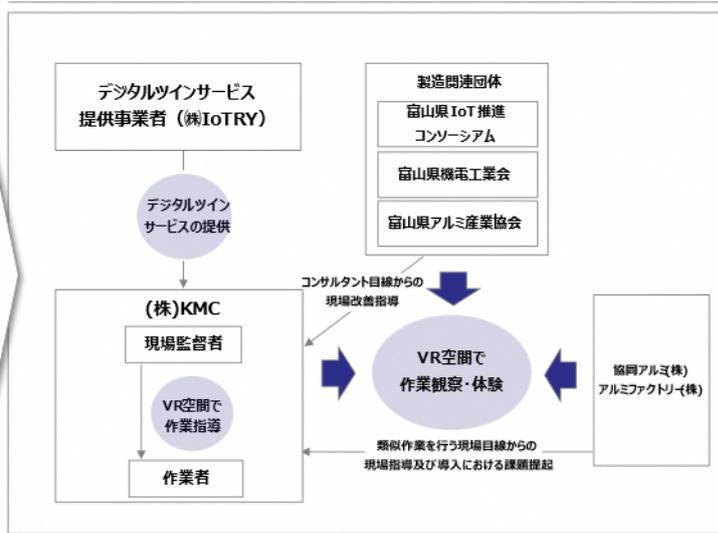
背景・地域課題

- ・中小製造業の現場監督者は作業者に対し、作業の振り返りや改善指導を十分に行えていない
- ・中小製造業でのIoTやAIなどの活用事例が少ない

検証目的・狙い

- ・デジタルツインによって再現した工場で作業改善指導を行うことによって、質の高い指導を行うことができるか
- ・VRの活用によって現場作業者のデジタル活用レベルが向上するかどうか

実証実験の座組



<実証実験プロジェクト⑥>

- ・ 事業者名：能越ケーブルネット株式会社（氷見市）
- ・ プロジェクト名：お困りごと解決プラットフォーム
- ・ 実証実験の概要：

主に中山間地域に住む高齢者とギグワーカーをつなぐプラットフォームを開発し、高齢者が抱える生活上のお困りごとを解決・支援する。

実証実験の背景・目的

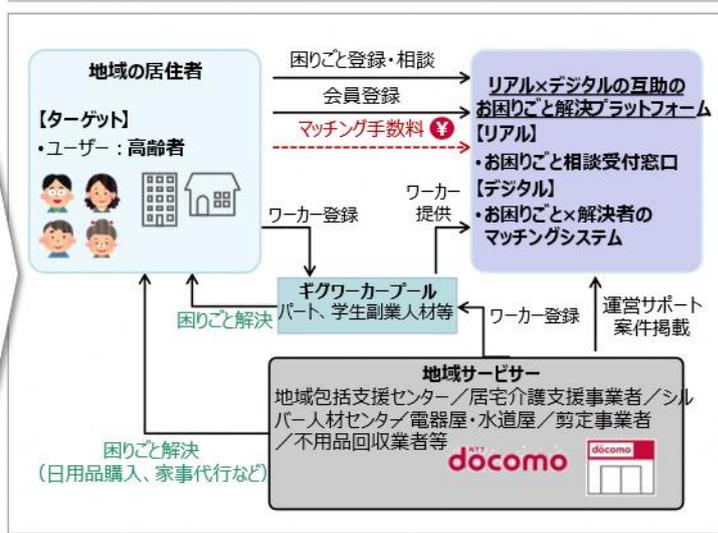
背景・地域課題

- ・ 中山間地域の高齢者を中心に日常生活を送る上での多様な困りごとが存在
- ・ アクティブシニアや若者等に地域貢献意識が高い層が増大しているものの、地域貢献の機会を上手くマッチング出来ていない

検証目的・狙い

- ・ パート、学生、副業人材と、高齢者のマッチングが効率的に実現可能か検証する
- ・ サービスが持続出来るだけの採算性が担保できるかを検証する
- ・ 既存の類似サービスとの棲み分けが実現できるかを検証する

実証実験の座組



<実証実験プロジェクト⑦>

- ・ 事業者名：株式会社 TRUSTDOCK（東京都）
- ・ プロジェクト名：デジタル身分証を用いた県民向けアプリなどの連携
- ・ 実証実験の概要：
「eKYC（オンライン本人確認）」を利用した「デジタル身分証」により、パスワードレス認証や個人データの連携を実現し、利便性を向上させる。

実証実験の背景・目的

背景・地域課題

- ・ 現在複数の県民向けアプリが提供されているが、個別ID/PWが必要で、今後のデータ連携による価値創出に向けてユーザービリティの改善が必要

検証目的・狙い

- ・ 今後のサービス連携基盤の整備による横断的なサービス提供、パーソナライズされた情報発信を見据え、一般モニターを対象に、マイナンバーカードにより作成した「デジタル身分証」を活用して、1度の認証によるアプリ（地産地消アプリ「食ベトクとやま」）へのログイン等について、UI/UXの検証を行う

実証実験のイメージ

1. TRUSTDOCKのサービスである eKYC(オンライン本人確認) の知見を活かし、本人確認を済ませたユーザーに対してデジタル身分証を提供・・・個人データの真正性の確保
2. OpenID Connectという標準化技術を用いた認証・認可・・・安全な個人データの連携

上記の2つを組み合わせることで、真正性を確保した個人データの安全な連携ができるようになることから、パスワードレス認証や基本4情報の連携を実現することができるようになる。

今回の実証実験では、パスワードレス認証や基本4情報の連携を用いた機能が行政サービス領域においても有効であることを確かめ、デジタル身分証を用いた行政サービス等を横断した認証・認可機能(サービス連携基盤の土台)としての利用価値を評価する。

■アプリへの初回ログイン(ユーザー登録)を例にしたイメージ

